

2019 年度 「年度末学校関係者評価」 (外部評価)

	項 目 (重点としたものに○)	学校の目標達成状況及び学校の取組の適切さ、改善方策について等の意見 (外部評価者からの指摘を基に記載)
教育環境の 充実	①学校安全の推進	<p>施設・設備面での安全の確保は、限られた予算の範囲内で優先順位を付けて行われていることはわかる。</p> <p>登下校の安全確保は、PTA や地域に助けられているところが大きいので、今後もこの関係性を保てるようにしたい。</p> <p>市の補正予算によって聖和学院側正門前の「交通指導員」の配置が復活したことがよかった。今後の継続を期待する。</p> <p>学校防災マニュアルが完成したら、地域でも共有したい。</p>
	②教育情報化の推進	
	③地域との協働推進	
	④学校評価を生かした学校づくり	
I 学習指導の 充実	①授業改善の推進	<p>校内研究で、「効率的な教え方」というものが存在しない生活・総合に取り組んでいることを高く評価したい。以前の算数のときのシャープな印象の授業研究から、探究的な学習を目指して子どもの学びをどのようにバックアップしていくかに目がいく授業研究に変わりつつあるように感じる。</p> <p>子どもたち一人ひとりが、「～のために」という思いを大切に学習に取り組んでいる授業が展開されている。この経験は中学での学びにつながる力になっていると感じている。</p>
	②健康体力づくりの推進	
	③体験活動の充実	
	④今日的課題への取組	
II 支援の充実	①支援環境の充実	<p>児童のトラブルの未然防止、早期発見、早期解決・改善のために日々奮闘している教職員の労力は、はかりしれないものがある。「インクルーシブ教育」「個の尊重」の理念の実現のためには、もっと多くの教職員の配置が必要であると切に思う。全ての子どもが大切にされる支援体制となることを願う。</p>
	②安心できる居場所づくりと絆づくりの推進	
	③問題行動対策・不登校対策の推進	
	④幼・保・小及び小・中の連携推進	
III 学校組織の 充実	①学校・学年・学級経営の充実	<p>職員室の灯が連日、夜遅い時間まで灯っているのを見ていて、教職員の健康を心配している。</p> <p>教員が「子どものため」というジレンマから解放されることはなかなか難しいだろう。「地域」「家庭」「学校」の三者で、それぞれが「できること」「すべきこと」を確認し、学校には「学校でしかできないこと」「学校でやるべきこと」に専念してもらいたい。また、学校から地域や保護者に何をしてもらいたいかを積極的に呼び掛けてほしい。</p>
	②研究・研修の充実	
	③信頼に基づいた指導の推進	
	④働き方改革の推進	